

# 注目の新成分 「亜りん酸」配合



素 早 い 吸 収

亜 り ん 酸

水 溶 性 加 里

植物の生命の活力源

通常  
500~2000倍  
葉面散布

■1リットル入り

## 【効果】

- 作物の健康状態を良くする
- 樹ボケの改善
- 花芽の充実
- 着果促進
- 成熟促進
- 収穫量増加
- 果実肥大促進
- 日持ち向上
- 抵抗力向上

4-30-20

肥料3大要素を  
バランス良く配合

吸収されやすい

亜りん酸

窒素

水溶性加里

生育促進

品質向上

生育初期から常時、  
葉の充実に

4-30-20

(N-P-K)



生育中期から、収穫まで  
花、実の充実に

0-28-26

(N-P-K)



## 作物の健全な育成に

育苗期や花芽の  
充実期に最適な  
高濃度、速効性  
の肥料です。

7~30日おきに  
3回程度の  
施用が効果的

0-28-26

吸収力にすぐれた  
速効性の肥料です

吸収されやすい

亜りん酸

水溶性加里

窒素代謝促進

開花・結実の充実

# 注目の新成分「亜りん酸」で、りん酸を素早く吸収！

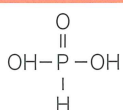
## 亜りん酸の特徴

- 葉面からの吸収効率が高い。
- 土壌中（微量元素・有機物など）で吸着されづらく、根からも吸収されやすい。
- 根圏の生育速度・発達に優れる。
- 微量元素の結合が起きにくい。
- 生長調整効果（しめる作用）がある。
- 植物の病害抵抗性機構発現を促進。

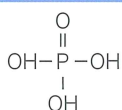
Q1 亜りん酸て何ですか？

A1 りん酸に比べて分子中の  
酸素が一つ少ないH<sub>2</sub>PO<sub>3</sub>

亜りん酸 H<sub>2</sub>PO<sub>3</sub>



りん酸 H<sub>3</sub>PO<sub>4</sub>



## りん酸は生命の活力源

特に花や実を形成する大切な栄養素

## 亜りん酸だから速効性！

亜りん酸で、必要なとき、必要なだけ  
適量を追肥しましょう。

Q2 一般に使用されている  
りん酸と亜りん酸は  
どう違うのでしょうか？

A2 りん酸に比べてりんの  
成分量が高く、水に溶け  
やすい。さらに、植物に  
速やかに吸収されます。

= 亜りん酸  
吸収しやすい



= りん酸  
吸収しにくい

Q3 エレマックスの  
黄と赤、どう使い分  
けるのでしょうか？

A3 黄ラベル（窒素成分入り）  
植物体内をバランス  
良く生育させることで、  
樹全体を充実させます。  
育苗期、樹勢の弱い  
ときの散布が特にお  
すすめです。

赤ラベル（窒素成分なし）

栽培中期から後半に  
かけて、花、実を充  
実させたいとき、樹  
ボケ気味の時におす  
すすめです。

# 早く効かせたいりん酸の葉面散布は、**亜りん酸入りエレマックス**を！



## エレマックス



散布タイプ

【肥料登録品】

肥料の種類：液状複合肥料  
登録番号：輸第9424号



散布タイプ

【肥料登録品】

肥料の種類：液状複合肥料  
登録番号：輸第9423号

### 内容成分開示 **安全**

- 肥料としての有効成分  
窒素全量 4.0% 水溶性りん酸 30.0%  
水溶性加里 20.0%

### 作用

- 吸収されやすい亜りん酸と、水溶性加里に加え、少量の窒素を配合することで、樹勢を保ち、かつ作物体内で開花や果実肥大のためのエネルギー源として働きます。

### 内容成分開示 **安全**

- 肥料としての有効成分  
水溶性りん酸 28.0%  
水溶性加里 26.0%

### 作用

- 吸収されやすい亜りん酸と、水溶性加里が高濃度でバランス良く配合され、作物体内で窒素代謝や開花のためのエネルギー源として働きます。

### 肥料登録取得 **安心**

- 栽培ごよみには、肥料として記載できます。

### 適用作物

- 作物全般(野菜類/果樹類/花卉類)

### 使用法

- 500~2000倍(通常1000倍)に希釈、7~30日おきに3回程度 葉面散布  
※キャップ1杯はおよそ16mlです

### 効果的な使い方

育苗期(特に葉菜類)、花芽分化の充実期、着果不良時、着色不良時、肥大不良時の散布、葉中に未消化窒素が残って病害の抵抗性の低下が懸念されるとき等には特におすすめです。

### 使用上の注意

- ◎夏季の高温時の散布は避ける。
- ◎アルカリ性農薬や石灰硫黄合剤、銅剤との混用は避ける。
- ◎ホルモン剤、カルシウム剤などの液肥との混用は避ける。

### エレマックス の使用法

|     | 作物                             | 目的                               | 散布濃度(倍)                            | 散布時期                              | 効果的な使用回数(回) |
|-----|--------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|-------------|
| 育苗時 | 果菜類<br>葉菜類全般                   | 徒長防止、健苗育成<br>光合成促進、耐病性向上         | 500-1000                           | 1.5~3葉期から定植まで<br>10-14日おき         | 2-3         |
|     | ウリ類(キュウリ・メロン・<br>スイカ・カボチャ等)    | 花芽の充実、着果促進、肥大促進<br>糖度アップ、耐病性向上   | 500-1000                           | 着蕾期から、<br>以後10-14日おき              | 3-4         |
| 本圃  | 根菜類<br>(ニンニク・タマネギ等)            | 肥大促進、品質の向上<br>耐病性向上              | 500-1000                           | 玉肥大初期から7-14日おき                    | 3-4         |
|     | 根菜類<br>(バレイショ等)                | 肥大促進、品質の向上<br>耐病性向上、茎葉の強化        | 500-1000                           | 肥大初期から<br>10-14日おき                | 3-4         |
|     | 豆類<br>(小豆・いんげん等)               | 着果促進、莢数増加、品質の向上<br>耐病性向上         | 500-1000                           | 定植後より着蕾期後期まで<br>10-14日おき          | 3-4         |
|     | 葉菜類(ハウレンソウ、<br>レタス、キャベツ、ハクサイ等) | 品質の向上、耐病性向上<br>未消化窒素の低減          | 500-1000                           | 定植後(または本葉2~3枚時頃から)<br>10-14日おき    | 3-4         |
|     | みぶな、みつば等                       | 品質の向上、耐病性向上                      | 500-1000                           | 定植後10-14日おき                       | 3-4         |
|     | 果樹<br>(カンキツ類)                  | 花芽分化の促進、着果促進<br>花芽の均一化           | 1000-2000                          | 9-11月上旬、収穫直後<br>花芽分化期、徒長枝の出やすい時期  | 3-4         |
|     | 果樹<br>(リンゴ、ナシ、サクランボ等)          | 品質の向上(糖度アップ等)<br>耐病性向上           | 500-1000                           | 新葉の展開時期から30日おき                    | 2-3         |
|     | ブドウ                            | 糖度アップ、品質の向上<br>耐病性向上、着色促進        | 500-1000                           | 開花初期 果実(房)の実止まり<br>時期から収穫2-3週間前まで | 3-4         |
|     | イチゴ                            | 品質の向上、耐病性向上<br>花芽分化促進            | 500-1000                           | 育苗時(花芽分化時)<br>定植後より(10~14日おき)     | 3-4         |
|     | ピーマン                           | 品質の向上、耐病性向上<br>果実中の未消化窒素の低減      | 500-1000                           | 定植後より(10~14日おき)                   | 3-4         |
|     | トマト                            | 品質の向上、耐病性向上                      | 500-1000                           | 定植後より(10~14日おき)                   | 3-5         |
|     | 花き類(キク)                        | 消灯後の花芽の充実(キク)<br>莖を硬くする、色上がりの向上に | 500-1000                           | 消灯後から<br>(わい化ホルモン剤との混用可)          | 3           |
|     | 芝                              | 根の活性化、耐病性の向上                     | 100m <sup>2</sup> あたり<br>100-200cc | 春先、夏から秋にかけて<br>2-3週間おき            | 3-4         |

※上記以外の作物についても使用できます。効果的な使い方については下記までお問い合わせ下さい。

